

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2278 号

Development of Japanese version of Depression Literacy Scale (D-Lit-J)

日本語版「うつ」に関するリテラシー尺度の開発

今野 友美 (いまの ともみ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

我が国のうつ病の患者数は年々増加傾向にある。うつ病は本人をはじめ家族や知人が適切に対処し、また環境を整えることで、早期発見・早期治療ができると言われている。そのためにはうつ病のリテラシーを高めることが望まれるが、わが国にはうつ病のリテラシーを評価するための標準化された尺度は存在しない。本研究の目的はうつ病リテラシーの評価を可能にするため Griffiths らが開発した Depression Literacy (D-Lit) の日本語版 (The Japanese version of Depression literacy: D-Lit-J) を作成し、その信頼性と妥当性を明らかにすることである。D-Lit-J は 22 項目の質問項目から構成され (得点範囲 0~22)、各質問文に対して正しい、間違い、わからない、より 1 つ選択し、質問に対して正解しているときは 1 点、間違いもしくはわからないと回答した場合 0 点と得点化される。対象者は首都圏にある大学の 1 年生 (英文学科、医学部)、首都圏近郊の大学付属の精神科に所属する精神科医に質問紙票による調査を行った。質問項目は、属性、D-Lit-J とした。2 回の調査に回答した学生を再テスト信頼性の対象とした。

有効回答のあった英文学科学生 112 名 (平均年齢 18.3 ± 0.57)、医学部学生 112 名 (平均年齢 19.3 ± 0.82)、精神科医 (平均年齢 40.2 ± 11.2) 29 名を対象とした。信頼性の検討では、大学生 224 名の D-Lit 22 項目の合計得点の α 係数は 0.818 だった。再テスト信頼性での対象者は医学部の 101 人であり、級内相関係数は 0.769 であった。妥当性の検討では、既知集団妥当性において、各群の平均点 (SD) は英文学科学生 7.61 点 (4.18)、医学部学生 9.51 点 (4.37)、精神科医 17.7 点 (3.15) であり、一元配置分析を行った結果、各群間での有意な得点差が認められた。D-Lit-J の信頼性と既知集団妥当性は確認された。対象者の選定、妥当性の検討において今後さらなる研究が必要である。